

地域振興策について

大野 栄光

〔質問〕世界同時経済不況にあつて、当市の企業も例外ではなく危機的状況になつてい

る。今、行政は市民と一緒になつて市内企業を応援するべきではないか。

例えば2011年デジタル化になるテレビ等を定額給付金に合わせ助成し、それに個

人の資金をあて、市内企業製品を購入するか、行政で使用するOA機器を交換時に導入するなど、少しでも企業を応援する姿勢を示すべきではないか、市長の所見を伺う。

○その他の質問

工業団地にエコ関連企業の誘致について

〔答弁〕【市長】市内企業製

品の購入促進により企業を応援するという趣旨は理解できるが、他市の取り組み状況を見ると、現実的にはかなり難しい課題があると思つており、市内の企業の別の分野においても可能な限り支援をしていきたいと考えている。

定額給付金を市内商店街で使つていただくことについても、例を上げれば、生ごみ処理機購入助成については市内の商店から購入したものと

ある。

市内商店街の活性化に向けては、今後も大きな課題として取り組んで参りたい。



小中学生の「早起き早寝」習慣の定着について

四 竈 英 夫

〔質問〕現在の小中学生の生活は夜型になり、さらには深夜型にまで進行していると言

われている。これは子どもたちの健全な成長には好ましいことではない。

ヒトは寝て食べて初めて活動ができる動物である。「寝る子は育つ」と言われるように、睡眠と食事と活動は

密接につながっている。

寝ないで食べないで活動の質は高まらない。

小中学生の生活の実態を把握し、早起き早寝の生活を定着させるとともに、朝食をしっかり食べ健全な体と心を育てるための教育に力を注ぐお考えがないか伺いたい。

〔答弁〕【教育長】昨年5月

に、小学1年生を除く中学3年生までアンケート調査を実施した。

何時に起きますかという設問には、6時から7時の間に起床しているとの回答が多くみられ、小中学生とも7時前

にほとんど起床している。次に何時に寝ますかという問いに、増加しているのは10時から11時に寝る児童である。中学生については、午後11時から12時に就寝する生徒の

割合が増加の傾向にあり、学年が上がるにつれて遅くまで起きている傾向が顕著に見られることがわかった。

朝ご飯を食べますかという問いには、「毎日食べる」が8割強で、「食べる日が多い」まで含めると、9割弱が朝ご飯を食べるようになった。これは年々改善されてきたと思つている。

また、体位測定で指摘されているのは、肥満傾向の子どもが小中学生ともに減少の傾向にあることであるが、小学

校の高学年では、依然として肥満の傾向があるということである。

教育委員会の基本的な対応策は、まず子育ての基本は家庭にあるというところをえ方をしている。

それには、地域ぐるみで家庭の役割を考える場が欲しいと思つている。

今回、提案している白石市家庭の日の創設は、大変大きな役割を果たすのではないかと思つている。